

CHAPTER 4 憎しみの向こうへ、一歩

Episode 8 ~ 14 Japanese Summary

収録エピソード

Episode 8 謎の贈り物

Episode 9 招かれざる客

Episode 10 幸せになるために

Episode 11 後輩のために

Episode 12 先輩とのティータイム

Episode 13 農場の主

Episode 14 見知らぬ者との取引

EPISODE
8

謎の贈り物



ヴィヴィ

ふむ、今回も贈り物がひとつ届きましたわね。



ヴィヴィ

いったい誰が、こんな贈り物を送ってきたのでしょうか？



ヴィヴィ

数日前にも、誰かが扉の前に置いていった贈り物がありましたけれど……。



ヴィヴィ

おそらく、同じ者が送ったのでしょうか？



ヴィヴィ

ダイヤモンドかしら？ それとも教主様が用意してくださったのかしら？



ヴィヴィ

最初にもらった贈り物には、優雅な帽子が入っていましたけれど……。



ヴィヴィ

誰かは存じませんが、ありがたく使わせていただきますわ。



ヴィヴィ

ご覧になりました？ わたくし、こんなにも人気者なのですわ。



ヴィヴィ

ですから、わたくしだけを見て学べば、誰からも認められる、優雅で品位ある淑女になれるのよ。



ヴィヴィ

ふむ、ところで……。



ヴィヴィ

わたくし、まだあなたのお名前を決めていませんでしたわ。



ヴィヴィ

いつまでも「そちら」「あなた」「あなた様」と呼ぶわけにもいきませんもの。



ヴィヴィ

思いついたついでに、何とお呼びするか決めることにいたしましょう。



ヴィヴィ

銀色の卵ですから、シルバーエッグ？



ヴィヴィ

これは何だか、子犬の名前みたいですわね。



ヴィヴィ

わたくしは他の竜族たちを、原石の名前で呼んではいますけれど……。



ヴィヴィ

まだ、そちらを「銀」と呼ぶのは少し違いますわね。



ヴィヴィ

ひとまず、卵の状態ですから……鉱石、そして銀ですし……。



ヴィヴィ

「銀鉱石」から「鉱」を抜いて、「銀石」はいかがかしら？

— しーん —



ヴィヴィ

オホホ！気に入っていただけたようで何よりですわ！



ヴィヴィ

では、これからはそちらを「銀石公」とお呼びいたしますわ！



ヴィヴィ

あっ！銀石公も、今の贈り物が何か気になるとおっしゃいました？



ヴィヴィ

よろしいですわ！胸を高鳴らせながら、特別に贈り物を開けてみることにいたしましょう。

— ガサゴソ、ガサゴソ —



ヴィヴィ

ほう？今回はリボンのついたマフラーですわね。



ヴィヴィ

気に入りましたわ。誰が送ったのかは存じませんが、実に審美眼に優れておりますわね。

— ころん —



ヴィヴィ

ん？今、少し動いたような……？

— しーん —



ヴィヴィ

……気のせいかしら……？



ヴィヴィ

ともかく、よろしいですわ！今回の贈り物も、特別に身につけさせて差し上げましょう。

— すっ……！ —



ヴィヴィ

銀石公、「衣服が人を作る」という言葉がありますのよ！



ヴィヴィ

自分を美しく飾ることも、淑女として果たすべき務めですわ。



ヴィヴィ

もちろん、外見と同じくらい、心を磨くことも大切ですけれど。

スチル



ヴィヴィ

よろしいですわ！なかなかお似合いですわね。



ヴィヴィ

オホホー！これで銀石公も、品位ある淑女へ一歩近づきましたわ！



ヴィヴィ

ふむ、せっかくこうしてお召し物も整えたのですから……。



ヴィヴィ

特別に今日だけは、わたくしが妖精王国をご案内して差し上げますわ。



ヴィヴィ

気に入ったのなら、何もお答えにならないでくださいませ。

— しーん —



ヴィヴィ

やはり、お気に召しましたのね。



ヴィヴィ

一緒に散歩いたしましょう。光栄に思いなさいませ。



ヴィヴィ

わたくしと散歩できる者など、そうそうおりませんのよ。

— 妖精王国 —



ヴィヴィ

ここが妖精王国、エルフィンランドですわ。



ヴィヴィ

翼を持つ住民たちの王国ですの。



ヴィヴィ

見た目には平和でのどかに見えても、侮れない場所ですわ。



ヴィヴィ

以前には、砂糖が足りないからといって、王国で反乱が起きたこともありましたの。



ヴィヴィ

妖精たちが善良に見えても、なかなか一癖あるということがわかりますわね。



ヴィヴィ

それから妖精たちは、「世界樹」というろくでもない神を崇めているのですが.....。



ヴィヴィ

世界樹は、そりゃあもうタチが悪いので、絶対に近づいてはなりませんわ。



ヴィヴィ

できれば、口に出すことさえお控えなさい。



ヴィヴィ

わたくしの言葉に同意するなら、何もおっしゃらないでくださいまし。

— しーん —



ヴィヴィ

オーホホ！ よろしいですわ、よろしいですわ！



ヴィヴィ

銀石公も、わたくしの考えに同意なさるのですね！



ヴィヴィ

それでは、散歩を再開いたしましょう。



ヴィヴィ

あちらは、エシュールという妖精が営んでいるパン屋で……。



ヴィヴィ

あちらへ行けば、妖精王国の広場に出ますわ。



ヴィヴィ

リコッタという妖精が営むレストランは、あのあたりですわね。



ヴィヴィ

そして、あちらの裏路地には、収集品を集めるのが趣味の妖精がいますの。

ガラの悪い妖精

ん？ あれ、ヴィヴィじゃないか？

怒った妖精

ヴィヴィ？ ああ、今回裁判にかけられたっていう、あの竜族？

怒った妖精

世の中、ずいぶん甘くなったもんだな～。犯罪者が堂々と散歩なんかしてさ。

ガラの悪い妖精

ウロス騒動も、結局あいつのせいなんだろう？

怒った妖精

はっ！ あの時、うちなんか丸焼けになったんだからな。



ヴィヴィ

……………。



ヴィヴィ

陰でこそこそ噂するなんて、本当に品位がありませんわね。



ヴィヴィ

銀石公は、ああいうものを学んではなりませんわ。



ヴィヴィ

ふむ、天気もよろしいことですし、広場の方へ行ってみましょうか？

怒った妖精

あいつ、堂々と俺たちを無視してないか？

ガラの悪い妖精

だな。行って一言言ってやるか？

怒った妖精

よし！ どうせ抵抗もできないんだろ。執行猶予を受けたっていうし。

怒った妖精

二度と散歩なんかする気になれないようにしてやる！

— 次のお話へ —

EPISODE
9

招かれざる客



ヴィヴィ

ここが妖精王国の広場ですわ。



ヴィヴィ

今日は静かな方ですが、本来は活気に満ちた場所なのです。



ヴィヴィ

こちらへ行けば食堂街があり、あちらへ行けば森に出るのですわ。



ヴィヴィ

ふむ、それにしても.....。



ヴィヴィ

あの妖精たち.....先ほどから、わたくしの後をつけているではありませんか？



ヴィヴィ

そこのお二方。

怒った妖精

は？ 俺たちを呼んだのか？



ヴィヴィ

ええ。なぜ先ほどから、わたくしの後をつけているのです？

怒った妖精

なぜ後をつけてるか、だって？

怒った妖精

お前こそ、どれだけ図々しかったら、こうして散歩なんかしてられるんだ？

ガラの悪い妖精

そうだよ、犯罪者なら大人しく自粛してろっての。



ヴィヴィ

何かと思えば、そのような理由でしたの？



ヴィヴィ

裁判はすでに終わり、わたくしは正当な処罰を受けている最中ですよ。



ヴィヴィ

あなた方があれこれ口を出すことはありません。



ヴィヴィ

お気に召さないのでしたら、教団へ正式に抗議なさればよろしいでしょう。

怒った妖精

何だ、あいつ？ 何を偉そうにしてやがるんだ？

ガラの悪い妖精

おお、あの首の反らし方を見るよ。

怒った妖精

喋り方も笑えると思わないか？

ガラの悪い妖精

わかる。なんかエルフの映画に出てくるやつみたいな口調だよな。



ヴィヴィ

.....。



ヴィヴィ

.....無視しましょう.....是非を問うても、良いことなどありませんわ。



ヴィヴィ

わたくしは、皆様とこれ以上お話しすることはございません。それでは、失礼いたします。

— ヒュッ！ドスッ！ —



ヴィヴィ

石？ い、今、石を投げましたの？



ヴィヴィ

.....。

ガラの悪い妖精

あれ？ 反応がないぞ？

怒った妖精

違う。反抗できないんだよ。

ガラの悪い妖精

もう一個投げてみるか？



ヴィヴィ

ああっ！ 石を投げるのはおやめくださいまし！



ヴィヴィ

銀石公に当たるかもしれませんの。

怒った妖精

銀石公……？ 何だよ、それ。

ガラの悪い妖精

もしかして、あの卵のことか？



ヴィヴィ

……………。



ヴィヴィ

その通りですわ。竜族社会の期待を一身に背負う淑女が眠る卵なのです。



ヴィヴィ

これ以上そのようなことをすれば、妖精と竜族の間に摩擦が生じますわよ！

怒った妖精

ぶははっ！ 今の聞いたか？ 妖精と竜族の間に摩擦が生じるんだってよ～。

怒った妖精

自分がまだ竜族社会で何かの役に立つと思ってるみたいだな。

ガラの悪い妖精

そうそう、後ろ盾を失った竜族のくせに。

怒った妖精

それとも、教主様のところへ駆け込んで告げ口するつもりか？

ガラの悪い妖精

必要な時だけ頼って、それで教主様が受け入れてくれるのかね？



ヴィヴィ

うう、今の言葉、本気でおっしゃっていますの？



ヴィヴィ

わたくしはまだ竜族社会で……！！



ヴィヴィ

竜族社会で……。



ヴィヴィ

……私は、何なの……？ もう、何者でもないじゃない……。

スチル



ヴィヴィ

……………。

— ガタン —



ヴィヴィ

ん？



ヴィヴィ

うああっ！だ、駄目ですわ！どこへ行くのです！？

怒った妖精

何だ？俺たちは何も触ってないぞ？

ガラの悪い妖精

風でも吹いたのか？

怒った妖精

そうかもな？でも.....。

怒った妖精

ぶはっ！ぶははは！あいつ、ひどい格好になってるじゃないか？！

スチル



ヴィヴィ

今は退きますが、覚えておきなさいませ！！

ガラスの悪い妖精

逃げてく三流悪役みたいだな！



ヴィヴィ

止まりなさい！ そのままでは大変なことになりますわ！

— ガタン、ガタン —



ヴィヴィ

は、速すぎて捕まえられませんわ！



ヴィヴィ

ううっ！ このままでは壁にぶつかってしまいます！！



ヴィヴィ

駄目です！ そこで止まりなさいませ！！



ヴィヴィ

もう転がるのをやめなさい！！

— ドタバタ！ —



ヴィヴィ

ひ、ひゃあっ！



ヴィヴィ

お願いですから、止まってくださいまし！ ううっ！



ヴィヴィ

.....。

スチル



ヴィヴィ

こ、このままでは卵が割れてしまいますわ……！！



ヴィヴィ

そんなことになったら、ダイヤモンドにいったい何と……！！



ヴィヴィ

こ、これは私のせいじゃない……私のせいではないのに……。

— タッ! —

スチル



クロエ

ふん、本当にそそっかしいんだから。



ヴィヴィ

クロエ.....？



クロエ

.....。



クロエ

次からは気をつけなさい。



ヴィヴィ

.....ありがとう、ございますわ.....。



クロエ

は？ 別に助けようとしたわけじゃないんだけど？



ヴィヴィ

.....

— タタッ! —



シオン・ザ・ダークブレット

ヴィヴィー!



ヴィヴィ

え? お姉様.....?



ウイ

会えてうれしい! 白い竜族のお友だち。



ヴィヴィ

ウイも? お二人がどうしてここに?



シオン・ザ・ダークブレット

ウイが、あなたに会わせてほしいって言うから、教団に向かってるところだったの。



ウイ

そうだよ! ウイが、白い竜族のお友だちに会わせてってお願いしたの!



シオン・ザ・ダークブレット

ここで何してたの?



シオン・ザ・ダークブレット

それにあいつ、クロエじゃない?



ヴィヴィ

う、うん……。



シオン・ザ・ダークブレット

まさか、クロエがあなたに何か言ったの？



ヴィヴィ

そういうわけではありませんわ。



シオン・ザ・ダークブレット

もしクロエに何か言われたら、私に言って。



シオン・ザ・ダークブレット

私がきつく言ってあげるから！



ヴィヴィ

心配しないでください、お姉様。



ヴィヴィ

何か問題があったわけではありませんから。



シオン・ザ・ダークブレット

そっか。ならよかった。



ウイ

だいたい話は聞いたよ。今まで、いろいろあったんだって？



ヴィヴィ

……そう、でしたね……。



シオン・ザ・ダークブレット

まあ、色々あったけど……ちゃんと解決したから、あまり心配しないで。



ウイ

うん！ ちゃんと解決したならよかった！



ヴィヴィ

ご覧の通り、わたくしは元気に過ごしていますわ。



ヴィヴィ

これをご覧ください、ウイ！ 竜族社会から、わたくしに預けられた卵ですの。



ウイ

不思議！ まんまるで、きらきらしててかわいい！



ヴィヴィ

それほど、あちらこちらからわたくしは信じられ、頼りにされているのですわ。



シオン・ザ・ダークブレット

そうよ！ 竜族のお友だちたちは、ヴィヴィのことをとても大事に思ってるんだから～。



ヴィヴィ

ですから、あまり心配しないでくださいまし。



ウイ

そっか！ よかった！



ウイ

あのね……白い竜族のお友だち……。



ウイ

ウイは、白い竜族のお友だちに会いたかったんだけど……。



ウイ

白い竜族のお友だちも、ウイに会いたかった？



ヴィヴィ

……………。



ヴィヴィ

もちろんです……会いたかったですよ……とても、会いたかったです。



ウイ

ウイは湖のほとりにいるから、会いたくなったらいつでも来ていいよ！



ヴィヴィ

そう言ってくれて……嬉しいです。



ウイ

あのね……白い竜族のお友だち、今、幸せなんだよね？



ヴィヴィ

……………。



ウイ

幸せじゃないの？



ヴィヴィ

……まだ……まだ、そうではないみたいです……。



ヴィヴィ

でもね……ウイ、幸せになります……。



ヴィヴィ

私も、他の人たちみたいに幸せになりたいですから。



ヴィヴィ

次に会う時には、恥ずかしくないように……全部、取り戻します。



ウイ

そっか。いつになったら、白い竜族のお友だちは幸せになるのかな？



ヴィヴィ

さあ……よくわかりません。



ヴィヴィ

でも、これだけは約束します。



ヴィヴィ

……その時が来たら、ウイ……。



ヴィヴィ

私の方から、ウイに会いに行きます。



ヴィヴィ

だから……もう少しだけ待っていてくれますか？

スチル



— すっ —

スチル



— 約束だよ。 —



ウイ

絶対に幸せになってね。白い竜族のお友だち。



ウイ

ウイは、まだ覚えてるよ。



ウイ

白い竜族のお友だちが、哀れな人生の記憶も大切にしまっておくよう努力してみて、って言ったでしょ。



ウイ

不幸の川に流れを任せてこそ、幸福の海にたどり着けるんだって。



ヴィヴィ

その言葉.....覚えていたのですか？



ウイ

うん！ あの時の約束も覚えてるよ？



ウイ

初めて願いごとをした時の記憶を、思い出してみたって言ったでしょ！



ウイ

よくは思い出せないけど、ウイ.....ううん、私、努力してるの！



ウイ

だから今度は、白い竜族のお友だちが約束して。



ウイ

あのね、ウイは白い竜族のお友だちに会って、初めてわかったの。



ウイ

幸せにも、努力が必要なんだって！



ウイ

竜族のお友だちも、幸せになるように努力してね！



ウイ

それで幸せになったら、ウイに会いに来て。



ヴィヴィ

.....約束します.....ウイ.....。



ヴィヴィ

私たちがまた会う時は、必ず笑って会いましょう。



ウイ

うん！絶対だよ！待ってるからね！



ヴィヴィ

ありがとう。私の妹。



ヴィヴィ

もう少しだけ.....もう少しだけ、待っていてくれる？



ヴィヴィ

お姉ちゃんが、恥ずかしくない姿で会いに行くから.....。

EPISODE
10

幸せになるために



— Scene 1 : 夜の街 —



ヴィヴィ

ウイは無事に帰ったのですよね？



シオン・ザ・ダークブレット

うん。ちゃんと送り届けたよ。



シオン・ザ・ダークブレット

いや、むしろ私の方こそありがとう。突然訪ねたのに、会ってくれて。



ヴィヴィ

お姉様がいなければ、ウイに会うことはできなかったでしょう。



ヴィヴィ

ウイとは、会っておいてよかったですわ。



ヴィヴィ

姉妹たちとは、ちゃんと会えましたの？



シオン・ザ・ダークブレット

どうしても……勇気が出なかったんだ。



シオン・ザ・ダークブレット

まあ……会うには会ったけど……ただ楽しいだけ、というわけにはいかなかったよ。



シオン・ザ・ダークプレート

まだ、お互いにしこりが残っていてね……。



シオン・ザ・ダークプレート

思ったより、もっと時間が必要みたい。



ヴィヴィ

……何があったのか、わかる気がしますわ……。



ヴィヴィ

そうですね、それだけ長い時間が過ぎたのですから。



シオン・ザ・ダークプレート

ヴィヴィ、あなたこそ何もない？



シオン・ザ・ダークプレート

奉仕が辛いとか、嫌がらせしてくるやつがいるとか。



ヴィヴィ

……わたくしは、元気に過ごしておりますわ……。



シオン・ザ・ダークプレート

そう？ ならよかった。



シオン・ザ・ダークプレート

もし何か問題があったら、必ず私に言うんだよ。



ヴィヴィ

そういたしますわ。あまり心配なさないでください。



シオン・ザ・ダークブレット

わかった～、ヴィヴィ！ それじゃ、元気でね。



シオン・ザ・ダークブレット

また遊びに来るから、あまり寂しがらないように。



ヴィヴィ

承知いたしましたわ。

— シオン退場後 —



ヴィヴィ

……………。



ヴィヴィ

気にかけてくれてありがとう、お姉様。



ヴィヴィ

姉妹たちと、また会える日を楽しみにしていますわ。

— Scene 2：翌朝・ヴィヴィの部屋 —



ヴィヴィ

今日という一日も始まりましたわね。



ヴィヴィ

わたくしは用事がありますので、戻るのは夜になってからですわ。



ヴィヴィ

その間、大人しくしているのですよ。



ヴィヴィ

わかったのなら、何もおっしゃらないでくださいまし。

— しーん —



ヴィヴィ

オホホッ！
銀石公、聞き分けがよろしいところを見ると、淑女としての素質に満ちあふれていますわね。



ヴィヴィ

それでは、お部屋をしっかり守っててくださいまし。

— Scene 3 : 昼・教団の花壇 —



ネル

ヴィヴィさん、お仕事は全部終わりましたか？



ヴィヴィ

ええ、一日中掃除をしても、なかなか終わりが見えませんでしたわ。



ヴィヴィ

それでも、本日やるべきことはすべて終えましたの。



ヴィヴィ

花壇への水やりも、ゴミ拾いも……。



ヴィヴィ

ご確認いただき、気に入らないところがあればお申しつけくださいませ。



ネル

ふむ、どれどれ……。

きよろきよろ



ネル

おお、見落としやすいところまで、きちんと掃除してあるじゃないですか！



ネル

普段から清潔に気を配っているとおっしゃっていましたものね！



ネル

一生懸命やっているようで、満足です。



ネル

よろしいです。今日もお疲れさまでした。



ヴィヴィ

あの、司祭長様.....。



ヴィヴィ

わたくしが奉仕している間、卵を部屋に置きっぱなしにしておくのが、少し不安で.....。



ヴィヴィ

(心の声) これからは預かっていただけないか、話してみようかしら？



ネル

どうかしましたか？ ヴィヴィさん？



ヴィヴィ

その.....つまり.....。



ヴィヴィ

(心の声) やはり、違うわ。私にそんなことを言える資格がどこに.....これは私が受けた罰で、私が背負っていくべきことなのに.....。



ヴィヴィ

何でもありませんわ。よい夜をお過ごしくださいませ。



ネル

はい、もちろんです！ 明日もよろしくお願ひしますね！

— Scene 4 : 夜・教団の客室 (ヴィヴィの部屋) —



ヴィヴィ

銀石公、よい子にしていましたか？



ヴィヴィ

えっ？！

スチル



— 荒らされた部屋と落書きを発見する —



ヴィヴィ

誰がこんなことを……！！



ヴィヴィ

銀石公は？！



ヴィヴィ

よかった。無事みたいですね。



ヴィヴィ

贈り物でもらった帽子とマフラーは……。



ヴィヴィ

気に入っていたのに……。



ヴィヴィ

直せるかしら？ やはり難しいでしょうね？



ヴィヴィ

……………。



ヴィヴィ

覚悟はしていましたわ。



ヴィヴィ

シオンお姉様や姉妹たちが受ける後ろ指に比べれば、何でもありません。



ヴィヴィ

この程度の屈辱なら耐えられます。この程度なら……。



ヴィヴィ

本当に、やることが幼稚極まりないですわね。



ヴィヴィ

周りが散らかっていますし、まずは掃除をしなければなりませんわ。

— しばらくして —



ヴィヴィ

掃除は、このくらいでよさそうですわ。



ヴィヴィ

ごめんなさいませ。ずいぶん驚いたでしょう？



ヴィヴィ

マフラーと帽子は、もっと良いものを探してみることにいたしましょう。

— しーん —



ヴィヴィ

.....あのね、銀石.....正直に言います.....



ヴィヴィ

わたくしに、あなたを世話す資格があるのか、わかりませんわ。



ヴィヴィ

私は、ダイヤモンドのように表も裏も澄みきって透明ではありません。



ヴィヴィ

いいえ、本当は中身なんて、誰よりも腐っていつているのです。



ヴィヴィ

シオンお姉様のように、周りをよく気にかけることもできません。



ヴィヴィ

一番上のお姉様のように、賢くありません。



ヴィヴィ

あなたの世話をしているのは.....。



ヴィヴィ

ダイヤモンドに、もう一度認めてもらうためです。



ヴィヴィ

最善を尽くしてみるつもりです。



ヴィヴィ

こうなってしまった以上は。



ヴィヴィ

それでも.....。



ヴィヴィ

あなたは、私よりもっと良い淑女になってください。



ヴィヴィ

皆に愛されて、そしてもっと多くの愛を分け与えられる、そんな竜族になってほしいのです。



ヴィヴィ

.....話が長くなってしまいましたね.....。



ヴィヴィ

ここまでにしておきますわ。よい夢を見てくださいまし。

EPISODE
11

後輩のために



ネティ

うーん、どうしたものですかね……。



ネティ

ヴィヴィに卵を預けはしたけれど……。



ネティ

まだ何の知らせも聞こえてこないし、ちゃんと面倒を見ているのかしらん？



ネティ

ダーヤ様は、ヴィヴィに贖罪させる意味で卵を預けようとおっしゃったけれど……。



ネティ

ダーヤ様のお考えはわかりますが……。



ネティ

やっぱり気にはなりますねえ。



ネティ

ヴィヴィが卵を預かるのは初めてでもありますし。



ネティ

せっかく思い出したことですし、ヴィヴィを訪ねてみるのも悪くなさそうですね……。



ネティ

私もいろいろな竜族をたくさん見てきましたから、それなりに助言もできると思うんですよ。



ネティ

ふむ……どうするのがいいでしょうかね。



ネティ

よし。この機会に、久しぶりにヴィヴィに会いに行きましょう。



ネティ

贈り物を少し買って、卵の世話に必要なものも用意して、行って様子を聞けばいいですね！



ネティ

ついでに、あれこれ助言もしてあげるとよさそうです！



オパール

……先輩……！ ネティィィ～先輩いい～!!!



ネティ

あら？ オパールじゃないですか？ いつからそこにいたんですか？



オパール

さっきからです！ さっきからネティ先輩のこと、五回は呼んでたんですよ！



ネティ

そうでしたか？
ごめんなさいね、オパール～。私、考え事にふけると周りがよく見えなくなるんです。



オパール

そうだろうと思って待ってました。えへ～。でも、ネティ先輩、ずっとひとり言ばかりぶつぶつ言
ってたんですよ。



オパール

先輩が私より古くて、長いあいだ風化されているから、耳が遠くなっちゃったのかと思ってびっくりしたじゃないですか！ えへ～。



ネットィ

うーん、そうでしたか。私の心配までしてくれるなんて、恐縮してしまいますねえ。



オパール

やっぱり先輩のことを気にかけているのは、オパールだけですよ～？



ネットィ

そうですね。オパールだけです～。



オパール

それで、何をそんなに考えていたんですか？



ネットィ

うーん、つまりですね……。やっぱりヴィヴィのところへ行くのは、ひとりの方がいいでしょう？



ネットィ

オパールを連れて行っても、余計に疲れるだけですし、うるさいだけでしょうからね。何でもありませんよ～。



オパール

ふええっ、先輩～!!
もう私にも言ってくれないで、また私だけ仲間外れにして遺跡探検に行こうとしてるんですね？



ネットィ

オ、オパール？



オパール

ふええん、ひどいです~！ ひっく！ 私には先輩しかいないのにいい~!!



オパール

寝ても覚めても先輩たちのことばかり考えているのに！
先輩は私を置いてどこへ行こうとしているんですか。ふええん~!!



ネティ

ああもう~、耳が痛いですねえ。オパール~、泣き止みなさい！



オパール

ぐすっ.....それで、どこへ行こうとしてるんですか？



ネティ

うーん、ヴィヴィに会いに行こうと思ひまして。



オパール

ヴィヴィ先輩にですか?! 私も行きます！



ネティ

.....これ、一緒に行っても大丈夫でしょうかね~？ あ！
オパール、今日は約束があるって言っていませんでしたか？



オパール

大丈夫です！ キャンセルすればいいです！

— トゥルルルル —



オパール

ピコラ先輩~、オパールです~。私、今からネティ先輩について、ヴィヴィ先輩にご挨拶しに行かなきゃいけないみたいでして~。



オパール

はいはい、私も残念です～。でも、ヴィヴィ先輩を大事に思うくらい、ピコラ先輩のことも大事に思っているって知ってますよね？



オパール

次は私が映画もポップコーンもデザートも全部おごります！
はいは～い。それじゃ、また今度お会いしましょう！ありがとうございます、先輩。えへ～。

— ブツ —



ネティ

.....。



オパール

約束、キャンセルしました！



ネティ

まさかこうやってキャンセルするとは思いませんでしたね.....。わかりました、オパール。



ネティ

その代わりに、いくつか約束してください。最近のヴィヴィは、あれこれあって敏感になっているはずです。



ネティ

ですから、むやみに神経を逆なでするようなことをしても、良いことはありませんよ。



ネティ

それから、ヴィヴィは騒がしいのが好きではありませんから、あまり大声で騒がないように。



オパール

え～、先輩ったら～もう！
まるで私が泣き虫で、息をするように失礼な後輩みたいじゃないですか！



ネティ

あはは.....違いましたか？



オパール

もうっ！先輩！ひどいです！私だって、それなりに考えもありますし、思いやりもあるんですよ！



ネティ

まあ、反論するのも面倒ですし、そういうことにしておきましょう。



オパール

そういえば、ヴィヴィ先輩のところへ行けば.....銀の竜族の卵も見られるんですよね？



オパール

前にダーヤ先輩が竜族たちをみんな集めて、ヴィヴィ先輩に預けるって言っていたじゃないですか！



ネティ

そうですね。そんなことがありましたね。皆さん、ダーヤ様のお言葉だからと、同意する雰囲気でしたし。



ネティ

あの時、ダーヤ様がヴィヴィは水銀の竜族だと公表なさったんですよね。



オパール

これで私にも後輩ができるんですね！すっごく楽しみです！えへ～。



ネティ

オパールに近いうち後輩ができるなんて。不思議な感じですねえ。



オパール

あ！
ヴィヴィ先輩が卵の面倒を見ているはずですから、贈り物を買って持っていくといいと思います！



オパール

私が使っていたガラガラと、体温計と、ローションと、安心毛布代わりのお人形と、たくさん持っていくますね！



ネティ

それを全部ですか？



オパール

はい！銀の竜族が、私の後輩になるんですから！
私もダーヤ先輩やネティ先輩みたいな、素敵な先輩になりたいんです！えへ～。



ネティ

すでに何だか不吉ですねえ……。



オパール

早く出発しましょう！
早く行けば、その分ちょっとでも長くヴィヴィ先輩を見られるじゃないですか！

EPISODE
12

先輩とのティータイム



— ヴィヴィの悪夢 —



ヴィヴィ

お姉様……！起きて……！



ヴィヴィ

お母様、お姉様たちがおかしいの！



ヴィヴィ

クロエも、イードも、末っ子も、みんなおかしいの。



ヴィヴィ

いくら起こしても目を覚まさないの。



ヴィヴィ

みんな体がすごく冷たい。息をしていないの。



ヴィヴィ

お母様……？お母様がやったの？

スチル



ヴィヴィ

幸せで美しい世界を作るって？ 今はお母様に、世界の面倒を見る余裕がないって？



ヴィヴィ

こんなふうに雪が降っているのも、そのせいだって？



ヴィヴィ

眠って起きれば、全部大丈夫になるって？ 違う、私は大丈夫。私は、私は眠りたくない！



ヴィヴィ

嫌、近づかないで。眠りたくない……。



ヴィヴィ

怖いよ、お母様……やめて！



ヴィヴィ

お母様、私が悪かったの。ごめんなさい。ごめんなさい、私が悪かったです！ お母様！！



ヴィヴィ

お願いします！私を捨てないで！私たちを諦めないでよ！！

— うあああっ !!! —

— ガバッ！ —



ヴィヴィ

はあっ、はあっ……！……夢？



ヴィヴィ

はは、あははははっ……！！また、こんな夢を見るなんて……。



ヴィヴィ

あれだけ時間が経ったというのに !!! 私は、どうしてまだ逃れられないの……。



ヴィヴィ

どうして、まだ !!!

— ガタガタ —



ヴィヴィ

大丈夫……ただの夢なのだから。……大丈夫なはず……。

— ブブブ —

オパールのメッセージ

こんにちは、ヴィヴィ先輩！オパールです！えへ～。

オパールのメッセージ

今日、ヴィヴィ先輩を訪ねたいのですが、大丈夫ですか？



ヴィヴィ

オパール……？ 蛋白石？ あの世間知らずの小さな竜族？

ヴィヴィのメッセージ

申し訳ありませんが、お断りいたしますわ。

オパールのメッセージ

あら？ どうしましょう？ もう到着してしまったのですが？

— コンコンコン！ —



ヴィヴィ

んん？

— バタン！ —



オパール

こんにちは～、先輩！ えへ～。



ネティ

お久しぶりです、ヴィヴィ。元気でしたか？



ヴィヴィ

な、何ですか？ 蛋白石、磁鉄鉱？ どうしてここに来たのです？



ネティ

元気になっているかと思って、訪ねてきたんですよ～。



オパール

そうです！ ヴィヴィ先輩の様子が気になって来ました！



ヴィヴィ

ダイヤモンドに言われたのですか？ わたくしが卵をきちんと世話しているか、確認しると？



ネティ

そうではありませんよ。単に私が気になって来ただけです。



ネティ

竜族の卵が元気になっているか、確かめたくてですね！



ヴィヴィ

わたくしも、卵も、ご覧の通り元気にしておりますわ。



ネティ

ん？ 本当に大丈夫ですか？ 顔色がよくありませんけど。



ヴィヴィ

.....少し、夢見が悪かっただけですわ.....。



オパール

それなら、このお茶を飲んでみるのはどうですか？
ピコラ先輩のおすすめで、安眠にいいって言っていました！



ヴィヴィ

わたくしは.....眠るために何かを飲みたいとは思いませんわ.....。



オパール

それなら、ただ笑っておしゃべりするのはどうですか？ 疲れたら、よく眠れますから！ えへ～。



オパール

わあ！先輩！この卵が、あの銀の竜族の卵ですか？きらきらしていて、とっても綺麗です！



ネティ

うーん……。オパールを連れてくるべきではなかったでしょうか？
ひとまず、卵の様子も確認できましたし……。次はひとりで訪ねることにしましょう。



ネティ

オパール、今日はもう帰りましょう。



オパール

え？ どうしてですか？ さっき来たばかりじゃないですか！
まだヴィヴィ先輩にも、かわいい後輩にも、ちゃんとお挨拶できていないのに。



オパール

も、もしかして、私がうるさすぎましたか？



ネティ

はい、よくわかっていますね。



オパール

私はただ、すごく嬉しくて！！私はヴィヴィ先輩と一緒にいたいのに……。うう……。



ネティ

オパール、うるさいので泣かないでください。それとも、外に出て泣いてきますか？



オパール

でも、ネティ先輩！！私はただ、ヴィヴィ先輩のことが好きで！！



ネティ

オパールが泣き出す前に撤退した方がよさそうですね。ヴィヴィ、あまりにも急に押しかけてしまったみたいです。また今度、改めて訪ねますね。



ヴィヴィ

.....。そうおっしゃらず、お茶の一杯でも飲んでいてくださいまし。



ネティ

え？ よろしいのですか？



オパール

本当ですか、先輩？！



ヴィヴィ

もちろんですわ。こうして訪ねてきてくださったのに、そのまま帰すのも礼を欠きますもの。



ヴィヴィ

私もいつか、竜族の一員として戻るのだから。その時のために、足場を固めておく必要があるわ。



ヴィヴィ

すぐにお茶を用意いたしますわ。

— しばらくして —



オパール

すごく嬉しいです！ ヴィヴィ先輩とティータイムだなんて！



ヴィヴィ

わたくしの何が、そんなによろしいのです？



オパール

だって、ヴィヴィ先輩は優雅で気高いじゃないですか！
それに、実力で序列二位の座まで上り詰めたんですし！ 本当に素敵だと思います！



ヴィヴィ

……。申し訳ありませんが、蛋白石。わたくしは、あなたが思っているような立派な竜族ではありませんわ。



オパール

え？



ヴィヴィ

わたくしは序列戦で、わたくしが勝てる戦いだけをしてきたのです。



ヴィヴィ

鋼鉄や黒曜石が勝負を挑んでくれば、あれこれ言い訳をして避けました。



ヴィヴィ

本当の実力で二位の座まで上り詰めたのは、黄金でしたわ。



ヴィヴィ

黄金こそ、軟らかいという生まれを克服し、技術と実力でその座まで上がったのです。



ヴィヴィ

そして、その黄金の座を奪ったのが、わたくしでした。



ヴィヴィ

他の竜族には自分を銀だと偽り、相性上の優位を利用して勝ちましたの。



ヴィヴィ

もう皆様もご存じでしょう？ わたくしが水銀だということを。



ヴィヴィ

蛋白石、わたくしはね。そういう竜族なのです。取るに足らず、卑怯な手を使う竜族。



オパール

.....先輩.....？



ヴィヴィ

今、皆様にお茶を振る舞っている理由も、その手管の一環でしたわ。



ヴィヴィ

いつか竜族社会に戻った時、自分の立場を確かなものにするための.....。



ヴィヴィ

私は、自分自身さえ愛せない。自分のことを、あまりにもよく知っているから。



ネティ

なぜ、そんな話をするのですか？



ヴィヴィ

さあ。よくはわかりませんわ。



ヴィヴィ

ただ、そう思ったのです。何と言えよよいのでしょうか.....ありのままの自分を受け入れてこそ、前に進めるような気がしたのです。



ネティ

うーん、そういうこともあるかもしれませんね。



ヴィヴィ

最近は、そんなことも考えるようになりました。



ヴィヴィ

わたくしが作った序列戦ひとつで、どれほど多くの竜族が苦しんだのだろう、と……。



ヴィヴィ

原石としての生まれが、その竜族の可能性を決めるわけでもないのに……。



ヴィヴィ

ですから蛋白石、わざわざわたくしのような者を尊敬する必要などありませんわ。



ヴィヴィ

むしろ、反面教師にする方がよろしいでしょう。



オパール

ううっ、ヴィヴィ先輩……。



ヴィヴィ

失望しましたか？ 蛋白石？



オパール

違います！ 失望なんてしていません！ ただ私は……ぐすっ！
ぐすっ……ふええん……かわいそうです！ ヴィヴィ先輩がかわいそうなんですっ！



ヴィヴィ

え？ 私が、かわいそう……？



オパール

はい！ すごくかわいそうです！ どれほど寂しかったでしょう？ 誰にも言えなくて……。



オパール

弱い姿を見せないように、どれほど頑張ってきたんでしょう？
そんなことを考えるだけで、胸が張り裂けそうですっ！



ヴィヴィ

あ……そう考えることもできるのですね……。



オパール

今だって、ひとりで卵の面倒を見ていて、どれほど寂しいことでしょう！



オパール

そばに話しかけたり、答えてくれたりするお友だちもひとりもないじゃないですか！
だから先輩、必ず戻ってきてください！

ぎゅっ！



ネティ

オパール、急に抱きついたら駄目ですよ……。



ヴィヴィ

こ、こんな子は初めてで戸惑いますわね？ でも……悪くない気分ですわ。わたくしは大丈夫です。



オパール

自分を諦めないでください！ そんなの、あまりにもかわいそうじゃないですか！



オパール

それから、銀の竜族の後輩が生まれたら、一緒に来てください！
みんなでパーティーをしましょう！



オパール

ダーヤ先輩と、ジェイド先輩と、ネティ先輩と、それから……！！



オパール

知っている先輩たちを全員招待して、ヴィヴィ先輩の復帰を歓迎するんです！
そうすれば、ヴィヴィ先輩も寂しくないじゃないですか！！

スチル



— ぐすっ、ぐすっ —



ヴィヴィ

……わかりましたわ……蛋白石。



オパール

そ、それから！ 私はオパールですってばー！ どうして何度も私を蛋白石って呼ぶんですか？
オパールって呼んでください！ オパール！



ヴィヴィ

わ、わかりましたわ。オパール。



ネティ

ふむ、ヴィヴィにとってもオパールは強敵のようですね。まあ、それでも悪くない光景です。

— 時間が流れ —



オパール

先輩！先輩とのティータイム、楽しかったです！



ネティ

ごちそうさまでした。そして、卵も元気そうですね。



ヴィヴィ

それを聞いて何よりですわ。はあ、お茶を一緒に飲んだだけなのに、どっと疲れた気分ですわね。



オパール

また遊びに来ますね！



ヴィヴィ

ええ、皆様、気をつけてお帰りくださいまし。



オパール

ネティ先輩～、今日は楽しかったですね？



ネティ

ふむ……。



オパール

ネティ先輩？何をそんなに見ているんですか？



ネティ

あちらでは、何が起きているのでしょうか？

???

おい、お前たち。お前ら、何様のつもりでうちのお姉ちゃんをいじめてるんだ？ああ？

妖精たち

す、すみません！そ、その　　！そちらのお姉さんだとは、まったく知らなくて！

???

警告しておくけど、もう一度そんなことをしたら、ただじゃおかないからな？

???

返事。

妖精たち

わ、わかりました！二度とこんなことはしません！

妖精たち

そうです！もう二度といじめません！



ネティ

何があったのかはわかりませんが、気にすることではなさそうですね。



ネティ

行きましょう、オパール。

EPISODE
13

農場の主



エルフ秘書

あの、本当に入るおつもりですか？



アイシア

そりゃ本当に入るわよ。偽物で入るとでも？



アイシア

何、今さら怖くなったの？

エルフ秘書

そういうよりは、気味が悪いのです。

エルフ秘書

何というか、本能的に拒否感がありまして。



アイシア

ふむ、確かに嫌な予感はあるわね。



アイシア

だからって、このまま帰るわけにはいかないでしょ！



アイシア

ここまで来るのに、どれだけ苦労したと思ってるの！



アイシア

.....よし！ こうしましょう！



アイシア

私が行くから、あなたはここで待機してなさい。

エルフ秘書

それでよろしいのですか？



アイシア

嫌なの？ それなら私が待機するから、あなたが入りなさい。

エルフ秘書

い、いえ！ 待機しております。



アイシア

よし。代わりに、何かあったらすぐ駆けつけるのよ？



アイシア

裏切ったら、クビよ！ クビ！

エルフ秘書

わ、わかりました！



アイシア

秘書のやつを先に入れたら、宝をくすねるかもしれないしね？



アイシア

ははっ！ 宝が見つかったら全部私のものよ！



アイシア

入ってみようじゃない。あの気味の悪い場所へ。



アイシア

うーん、何でこんなに暗いのよ。



アイシア

懐中電灯でも持ってくるべきだったかしら。



アイシア

おい、秘書。ここ暗すぎるから、懐中電灯をひとつ持ってきて。



アイシア

何よ？通信が切れてるじゃない。



アイシア

仕方ない、スマホのライトでも点けるしかないわね。



アイシア

何ここ？農場なの ??

???

あら？あなたは誰かしら？初めて見る子ね.....？

???

もしかして迷子になったの？お姉さんが出方を教えてあげようか？



アイシア

何よあんた、私を子ども扱いして！



アイシア

あんた、私が誰だかわかってるの？！

???

誰かは知らないけれど、道を間違えたことはわかるわね。



アイシア

道を間違えたって、何を間違えたっていうのよ。



アイシア

私はここに埋まってる宝を探しに来たの！

???

宝？ 悪いけれど、ここには宝なんてないわよ？

???

あなた、何者なの？ ここで宝だなんて言い出すなんて。



アイシア

こう見えても、私はモナティアムの第2企業、フロストノヴァの会長様なのよ！

???

ふむ？ モナティアムの第2企業？ そんな自己紹介は初めて聞くわね。



アイシア

ちょっと！ 今、2位をバカにしたの？



アイシア

2位だって、ものすごく頑張らなきゃいけないんだから！

???

バカにした覚えはないけれど？

???

それで、ここへはどうやって来たの？

???

簡単にたどり着ける場所ではないはずだけど。



アイシア

ここってどこなの？

???

さあ～、どこだと思う？



アイシア

質問に質問で返すんじゃないわよ！

???

それなら、ひとまず私の住まい、とでも紹介しておこうかしら。



アイシア

住まい？ この農場、全部あんたの土地なの？



アイシア

あんた、もしかして土地持ち？

???

そういうふう考えたことはないけれど、特に重要なことではなさそうね。



アイシア

ふん、本当に面白みのないやつね。



アイシア

ここで何をしてたの？

???

私は長いあいだ、ここで過ごしながら……農作業をしていたのよ。



アイシア

農作業？ あんた農家なの？

???

農作業は、一種の趣味みたいなものよ。



アイシア

そう？ じゃあ、あんたは何者なの？

???

数学者。あるいは導く者。もしくは農場の主。



アイシア

何よ？ 農場の主なら、農家で合ってるじゃない。



アイシア

それで、何を育ててたの？

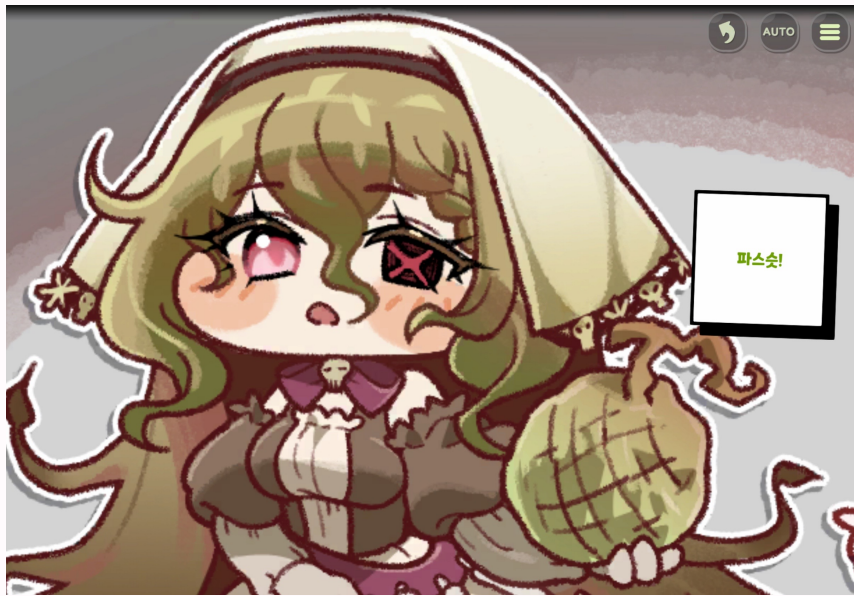
???

いろいろな作物を栽培しているの。

???

見ての通り、農作業の才能はないけれどね。

スチル



アイシア

な、何よ？ 今、メロンを干からびさせたの？

???

そうだけれど？



アイシア

ふむ、なかなかやるじゃない。



アイシア

あんた！ 私と契約しなさい！

???

契約？



アイシア

そう！ 契約よ！



アイシア

何てこと、掘り出し物じゃない！ こんなやつにここで出会うなんて！



アイシア

あいつの能力で、メロンを全部ダメにするのよ！



アイシア

これでメロンはモナティアム、いいえ！ エーリアスからクビよ！



アイシア

さっさとこの契約書にサインしなさい！ サインしなければ、エーリアスからクビよ！

???

エーリアスからクビ？

???

面白いわね。私をクビにするだなんて。



アイシア

え？

???

でも、どうしたものかしら？ クビにされたのは、私ではなくあなたの方みただけけれど？



アイシア

な、何ですって？！

EPISODE
14

見知らぬ者との取引



アイシア

そ、それはどういう意味よ？

???

言葉通りよ。あなたの魂は今、エーリアスに属していないの。



アイシア

私の魂が、エーリアスにないって？

???

ええ。あなたはエーリアスに存在していない。



アイシア

な、何なの？ こいつ。ちょろいやつだと思ってたのに、思ったより不気味じゃない……？

???

それでもあなた、勘はいいのね？
あちこち目を泳がせながら様子をうかがうところ、気に入ったわ。



アイシア

そ、その……あんた、メロンを干からびさせたじゃない。あれがあんたの能力なの？

???

ええ。



アイシア

それなら、エーリアスからメロンを消すこともできる？



???

たかがメロンごときが、私の影響力から逃れられるはずもないわ。できるけれど、どうしてそんなことを聞くの？



アイシア

思ったよりすごいやつじゃない。それなら、エーリアスからメロンを消してちょうだい。

???

メロンを消す？ そんな妙な頼みをする子は初めてね。どうしてメロンを消してほしいの？



アイシア

私、メロンがこの世で二番目に嫌いなの！

???

この世で二番目に嫌い？ では、一番嫌いなのは……？



アイシア

メロナってやつがいるの。メロンの精霊よ。

???

それなら、そのメロナという精霊を消してほしいと頼むのが筋ではないの？



アイシア

私は、メロナがメロンを失って大泣きする姿を見たいのよ。そうすれば、胸がすっとする気がするの。

???

ふむ？ 何とも変わった子ね。



アイシア

だからメロンを消してちょうだい。お金ならいくらでも出すから。

???

お金など、私には何の役にも立たないわ。



アイシア

それとも、何か条件があるの？ 必要なものがあるとか、気に入らないやつを冷蔵庫に閉じ込めたいとか。私、そのくらいの力はあるわよ？

???

ふむ 私と契約したいのなら……。よし、それならこうしましょう。

???

銀色の竜族の卵を、私のところへ持ってきなさい。そうすれば、このお姉さんが特別に考えてあげるわ。



アイシア

竜族の卵？ どうしてそんなものが必要なの？

???

知りすぎようとしないうことね。



アイシア

それはどこにあるのよ？

???

どこにあるかは、自分で探してみなさい。そのくらいはできるでしょう？
全部教えてしまっても面白くないもの。



アイシア

それさえ持ってくれば、エーリアスからメロンを消してくれるのよね？

???

ええ、そうしてあげましょう。



アイシア

よし、メロナ！ あんたも終わりよ、終わり！ ところで、私はここからどうやって出ればいいのか？

???

こうすれば出られるわ。



アイシア

うーん？ 急に、どうしてこんなに眠く……？

— 画面転換 —

エルフ秘書

……会長！ 会長 !!



アイシア

うう……頭が痛い。

エルフ秘書

会長、大丈夫ですか？



アイシア

な、何よ？ 何があってそんなに大騒ぎしてるの？

エルフ秘書

会長があそこへ足を踏み入れた瞬間、倒れられたんです！



アイシア

倒れた？ 私が？

エルフ秘書

はい。息もしておらず、心臓も止まっていました！



アイシア

な、何言ってるのよ！ 私は確かに、あそこで麦畑が広がる場所に行ったの！



アイシア

それに、そこで変な農夫に会ったんだから！



アイシア

ん？ 考えてみたらおかしいじゃない？ 洞窟に入ったのに農場が出てくるなんて！



アイシア

あ！ ついて来なさい！ 確かめたいことがあるわ！

エルフ秘書

か、会長！ どちらへ行くんですか！



アイシア

早く来なさい！ でなければ、あんたはクビよ！



アイシア

そうよ！ここを通れば、確かに麦畑が広がる場所に出るはずなの！



アイシア

ん？ どういうこと？ 何よ？ 確かに農場みたいな場所が出るはずなのに？



アイシア

この気味の悪い空間は、いったい何なのよ！

エルフ秘書

会長！大丈夫ですか？ 何なんですか？ この不吉な場所は。



アイシア

私にもわからない。いったい、何がどうなってるのよ？